



1926



1933



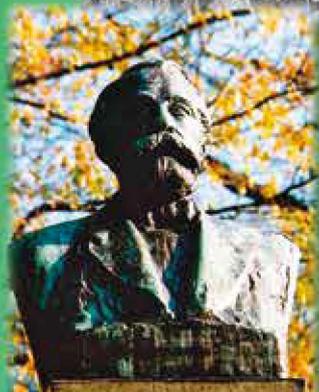
1944



1948



1969



2001

北海道大学150年史 編集ニュース

第1号 2018年7月20日

目次

創刊の辞	2
150年史編集準備室の紹介	3
北大歴史ノート 第1話	
Boys, be ambitious.	4
北大風景グラフィ	
メインストリート（北10条近辺）	5
〔資料紹介〕 収蔵庫さんぽ	6
〔活動紹介〕 日誌 pick up	7
イベントのお知らせ	8

表紙図版

- 1926 創基50年を記念したクラーク博士胸像除幕式
- 1933 クラーク博士胸像と中央講堂（現ロータリーの南側）
- 1944 戦時中に胸像が金属供出された後の台座
- 1948 クラーク博士胸像の再建除幕式
- 1969 学生運動で落書きされたクラーク博士胸像
- 2001 創基125年を迎えたクラーク博士胸像

創刊の辞

長谷川 晃
(北海道大学150年史編集準備室室長)



北海道大学は、2026年に創基150年を迎える。1876年に札幌農学校が開設されて以来、1907年の東北帝国大学農科大学を経て、1918年に北海道帝国大学となって我が国の基幹総合大学としての出発を果たし、1949年に新制国立大学となった後、2004年には国立大学法人となって、現在で142年の歴史を持つに至った本学は、12学部・24大学院・23研究所等を抱える日本有数の研究大学として、不断の歩みを続けている。

自然であれ、人間であれ、あるいは社会であれ、およそ時間の流れと空間の変化の中を不断に歩み続けるものは、その歴史を堆積させる。特に人間と社会は記憶と物語を通じて、その歴史の軌跡を今に伝え、後世に残してゆく。そのような中であって、人間の組織や制度もまた同様の歴史を持つ。人々の往来、様々な出来事、複雑多岐に亘るそれらの交錯、そして多くの変化の重なりの中で、組織や制度は日々変容しながら存続するが、それは種々の記録とその解釈の幾多の連鎖の中で絶え間なく再確認され、そして意味の軌跡を生み出しながら、そこに去来する人々の生の意義を問う。歴史家 E・H・カーは「歴史とは現在と過去との不断の対話である」と喝破したが、まさに、歴史とは過去の遺物ではなく、未来に向かって今を引き継ぐ人間の営為だと言える。

北海道大学にもそのような歴史がある。そして、その過去との対話の上に、本学の今があり、また未来がやってくる。年史はそれらの大河のような流れの一環を成すものであるが、本学にはすでに充実した100年史、125年史が残されており、これまでの歩みがつぶさに見通せる。そして、今般、新たな歴史プロジェクトとして、

本学の150年史編纂事業が静かにスタートした。この『北海道大学150年史編集ニュース』は、その事業の開始を本学に関わる多くの人々に知らせ、今後その事業の経過と進捗を一步ずつ伝えてゆくものである。

北海道大学150年史編纂事業のプランニングは昨年の初夏に始まった。本事業は、150年という本学の大きな節目を控えて、まず3年の準備期間をかけて編纂事業室を準備し、2021年から本格的な事業をスタートさせ、以後2026年を挟んで10年間で事業を完了するという壮大なプロジェクトである。その作業の中心は北海道大学大学文書館が担うことになるが、そこでは学内の他の関係施設、特に本学の総合博物館や附属図書館なども連携協力して、北海道大学のアーカイブ関係組織の総力を挙げて取り組みがなされてゆく予定である。そして、内容面でも、年史に求められる子細な記録や叙述は言うまでもなく、様々な図表や資料・調査データなど、冊子体に止まらず種々の媒体を活用しながら、本学の150年を立体的に読み解く斬新な試みとする計画である。

しかし、もとより、そのような立体的な歴史編纂の試みは、上記の作業関係者だけで可能になるものではない。その完遂のためには、北海道大学に勤務する教職員のみならず、学生やOB・OG、同窓会各位など、本学に関わるすべての人々の助力が欠かせないことは明らかである。今後の編集過程では、多くの人々のご理解とご協力をお願いすることになるであろう。その折には、北海道大学創基150年のアンビニャスな歴史的対話を共に生み出すために、本編纂事業に参画・協力していただければ誠に幸いである。

150年史編集準備室の紹介

2026年 北海道大学創基150年へ…

北海道大学150年史編集準備室では、2021年から本格化する編集事業に向けて資料の収集・整理・調査をおこない、webページ・広報誌などにより情報発信していきます。

組織

室長	長谷川 晃	(大学文書館館長)
副室長	眞壁 仁	(大学文書館副館長)
室員	廣瀬 公彦	(大学文書館特任助教)
室員	佐々木 朝子	(大学文書館特定専門職)
室員(兼)	井上 高聡	(大学文書館准教授)
室員(兼)	山本 美穂子	(大学文書館特定専門職)



〔2018年5月1日現在〕

業務内容

年表作成

北大での主な出来事を抽出して年表の形にまとめ、webページなどで公開する

写真整理

収集・受贈した写真について、被写体や場所や年代を特定し、目録化・デジタル化して公開する

展示

北大の歴史上の重要なテーマについて資料を収集・調査し、成果を企画展示や見学会などで公開する

広報

ニュースレターを定期発行して、北大の歴史に関するコラムを連載し、活動やイベントを紹介する

2018年度業務計画

- 広報誌『北海道大学150年史編集ニュース』刊行 (6月・12月)
- 北海道大学史紹介のwebページの作成
- 創基150年記念プレ企画展示「“北大”100年」(仮題)
- 創基150年記念プレ企画展示「女性の北大生誕生100年」(仮題)



北大歴史ノート 第1話

Boys, be ambitious.

歴史に記されない言葉

1877年4月16日、帰国の途につくクラーク博士が放った言葉“Boys, be ambitious.”はとて有名だが、北大（当時は札幌農学校）の刊行物の中には、なかなか姿をあらわさない。



離札当日のクラーク
(右から2番目)

年次報告書（『札幌農学校第二年报』1878年）や学校概要の沿革略史（『札幌農学校一覧』1892-1907年）、万博出品刊行物の沿革史（新渡戸稲造『The Imperial Agricultural College of Sapporo』1893年）は、クラーク離札の場面を詳しく描いておらず、このセリフも登場しない。

“Boys, be ambitious.”は、当初、北大の歴史に記述されない事柄だった。

はじめは学生から

1894年、予科生徒・安東幾三郎は学芸会誌『蕙林』第13号に「ウイリヤム、クラーク」を発表した。クラークに直接教わった1期生からの聞き取りをもとに離札の場面が描かれており、あのセリフはここで初めて記録された。

その内容は、1898年刊行の学校紹介冊子『札幌農学校』の第2章で沿革をまとめた中に取り入れられる。

札幌を距る約七里の地なる嶋松駅に於て、師弟別を告ぐ。彼れ胸中万斛の涙を湛へ、低回顧盼之を久うし、忽ち高く一鞭を揚げて、其影を失ふと云ふ。……Boys be ambitious の語は彼れが最後の遺訓……

クラークが島松で学生と別れの挨拶をし、名残を惜しみつつも、ついに一言を残して颯爽と馬を駆り行くという場景が描き出されている。

凡例によれば、『札幌農学校』の執筆にあたったのは安東を含む学生6名だった。すると“Boys, be ambitious.”の伝説の端緒に位置づけられる2編の文章は、学生たちの手に成ったということになる。クラークが“Boys”に向けて残した言葉は、20年後、後輩の“Boys”により北大の

歴史の中に編み込まれた。

50年後の新要素

北大が主体的に編纂・刊行した最初の年史である『創基五十年記念北海道帝国大学沿革史』（1926年）には



『札幌農学校』の扉
クッキーのパッケージ
デザインでおなじみ

愈々分袂の時期に臨みクラーク学生に向ひ、「一葉の端書に依つて諸子の消息を予に漏すことを永く忘るゝ勿れ」と幾度も繰返しつゝ、再び南部産の駿馬に跨り、Boys, be ambitious!「青年よ須らく大志を懐け」の名句を後に残し、一鞭を与へて阪を登り疎林の彼方に其影を没す。

とある。話の大筋は同じだが、ここにおいて、帰国後の消息（手紙）の約束という新たな要素がみられる。著者の中島九郎（1910年卒業生、農学部教授）は、凡例で第一次的文献に基づくことを掲げるが、典拠は示されていない。

ただ、1期生・大島正健『クラーク先生とその弟子達』（1937年）の中に、消息の約束が記されている。また、「南部産の駿馬」という表現には、岩手県出身の1期生・佐藤昌介との関わりを感じる。中島は、こうした1期生の話に拠ったのかもしれない。

クラーク離札から約50年後、当事者たちによって、この伝説はなお生み出されていく。

伝説から資料へ

その後の沿革史として刊行された『北大百年史』や『北大百二十五年史』は、いずれも文飾を避けて簡潔に述べ、安東の文章を参考としてあげるにとどめている。場景描写をおこなわず、最も古い文献を資料として提示するのは、歴史学に基づく態度だろう。

このように、クラークに教えをうけた学生やその周りの人々によって生成されてきたこの伝説は、今、さまざまなバリエーションの資料となって我々の前に残されている。しかし、その生命力は失われず、みる者を魅了し続けている。

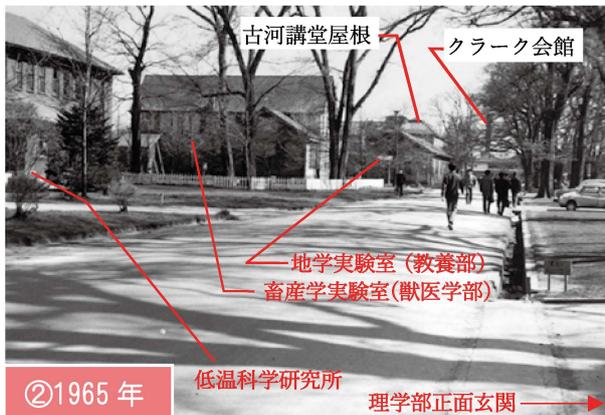
参考 秋月俊幸「校友会誌からみた札幌農学校の校風論」
（『北大百年史』通説、1982年7月）（廣瀬）

北大風景グラフ I

メインストリート (北10条近辺)



(『北海道帝国大学農学部第二回卒業記念写真帖』より)



(1965年5月22日、施設部撮影)



(2018年6月6日撮影)

クラーク会館から北18条まで通じるメインストリートはいわば北大の大動脈であり、先日の大学祭でも大変な賑わいを見せていた。この風景の変遷を、現在の文系学部近辺を撮影した写真から追ってみよう。

写真①の建物は恵迪寮(1903-31年、現在の教育学部・文学部の位置)である。メインストリートに相当するのは寮手前の道で、現在と比較すると細い小道に見える。当時、既存の施設(古河講堂など)は正門から農学講堂(現在の農学部正面付近)に至る東西方向の道沿いに建てられており、こちらが軸となる道路であった。

現在のメインストリートが主要な道路として機能するようになったのは、新たな学部の設置(医学部1919年、工学部1924年、理学部1930年)や、恵迪寮の北17条への移転など、キャンパスの北側に次々と施設が増設されたためである。人通りも格段に多くなったことであろう。

写真②が撮影された1965年には、恵迪寮の移転跡は低温科学研究所(1941年新築)となっていた。他にも畜産学実験室や、地学実験室といった現存しない建物が確認できる。道路幅は現在に近いものの、歩道は敷設されていない。歩行者はそれとなく端に寄っていたようだ。

大学構内は当時も観光スポットとして名高く、観光客の多さと乗り入れる自動車によって支障が出ていた。自動車交通の急速な普及という社会情勢に、キャンパスも無縁ではなかったのである。構内の交通環境は、既に1964年には学内の会議で大きな問題として取り上げられるほど深刻化していた。さらに、低温科学研究所の移転に伴って、1966年から現在地に文系各学部の校舎が立ち並びはじめ、歩車分離の必要性が一段と高まる。1968年、構内の交通計画がまとめられ、メインストリートの歩道整備は、その一環として始まった。

写真③、現在のメインストリートでは、自転車専用レーンが設けられ、構内循環バスが走るなど、さらに交通整備が進められている。

北大の変化とともに、そのありようや周辺施設が変遷してきたメインストリート。通い慣れた道の、今と昔に思いを馳せてみるのもよいかもかもしれない。

(佐々木)

〔資料紹介〕 収蔵庫さんぽ

1960－70年代の学寮資料 ～林修嗣氏寄贈資料から～

大学文書館内の収蔵庫に、恵迪寮・北学寮に関する新たな資料が加わりました。5月17日(木)、林修嗣氏(薬学部1972年卒業)からご寄贈いただいたものです。林氏は、1969年秋から1970年初めにかけて恵迪寮の執行委員会委員長を務めていました。

資料には、恵迪寮生が作成したガリ版刷冊子(「恵迪落書き集」「恵迪落書集成」)や、デジタル画像版の『北海道大学恵迪寮 昭和43年度アルバム』があります。恵迪寮生の「バンカラ」な気風を垣間見ることができます。

また、北学寮の「郷関録」(寮生名簿)もあります。北大の学寮といえば恵迪寮が有名ですが、現在の場所に移転(1983年)するまでは教養部学生(1、2年生)が対象であったため、学部学生向けの寮が学外に点在しており、各々の伝統や特色をもっていました。北学寮もその一つです。

このほか、林氏が堀内壽郎学長(1967－71年在任)から手渡された謄写版の講演原稿もあります。

これらの資料の一部は「北大会館祭(15周年)」(5月27日開催)で展示し、同窓生の皆さまに好評を博しました。編集準備室では、学寮をはじめとした学生生活に関する資料について、皆さまからのご一報をお待ちしております。

(佐々木)



『北海道大学恵迪寮 昭和43年度アルバム』より

1970－80年代の教育学部資料 ～竹下忠彦氏寄贈資料から～

5月24日(木)、竹下忠彦氏(教育学部1982年卒業)からご寄贈いただいた勉学や学寮に関する資料には、卒業された教育学部にまつわる資料が数多く含まれています。

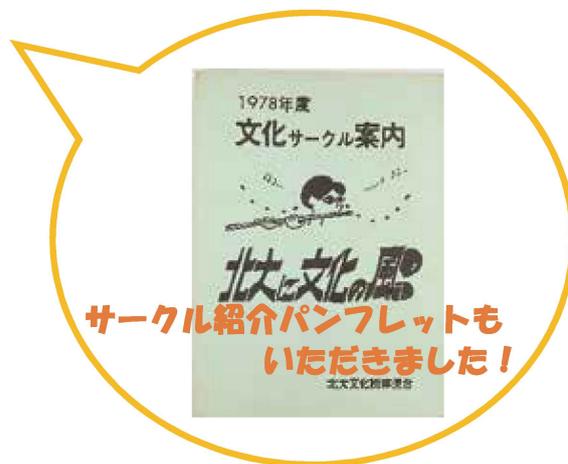
右の「1980年度版教育学部セミナー」(ガリ版刷)は、学生手作りのゼミ紹介用パンフレットです。各ゼミの内容や使用テキスト、研究室の雰囲気や学生の研究テーマ、自主ゼミの活動などが書かれています。



このほか、1981－82年の「教育史学ゼミ」でおこなわれた「卒論検討会」のレジュメのファイルをはじめ、受講ノートや授業での配布プリント、外国語論文の和訳など、実際に授業や演習で使用した資料があります。

これらは教育学部における研究・教育の実態の一例を指し示しており、学部の沿革に学生の視点から深みを与えてくれます。皆さまのお手元にも、当時のノートや授業プリント・配布物など、学部や講座の歴史を照らし出す資料が眠っていませんか？

(佐々木)



〔活動紹介〕 日誌 pick up

5月27日 大阪で講演・出張展示 ～北大会館祭～



5月27日(日)、関西同窓会・関西エルム会主催の「北大会館祭(15周年)」において、「北海道大学大学文書館の紹介」と題して山本美穂子兼任室員が講演しました。

講演末尾では、150年史編集で扱うこととなる1970年代以降の資料の不足をうったえ、寄贈を呼びかけました。司会の日下大器氏からも、「生きている間に自分で寄贈しないと、その資料がどう大切なのか分からなくなりますよ」とジョークを交えた後押しをいただきました。

また、会場では資料を実際に陳列して当日限定の資料展示もおこないました。

- 「都ぞ弥生」が初めて披露された第7回寮祭プログラム(1912年4月)
- 有島武郎の英語和訳試験問題(1908年)

といった“お宝史料”から

- 1960-70年代の教養部時間割
- 北海道大学恵迪寮 昭和43年度アルバム
- 大学祭パンフレット

など身近だったものまで、多様な資料を並べました。ご覧になった方からは、

「有島武郎の筆記体が美しい」

「教養部でこの授業を受けた」

「恵迪寮の売店のこの人を知っている」

など、さまざまな感想をいただきました。

会場には、1945年予科入学の方から2017年度卒業生まで、たくさんの同窓生の方々が集まりました。幅広い年代の方がいらっしゃるため、時に、「古河講堂の横に獣医学部があって…」

「いや、獣医は18条の方でしょ」「あれ、そうだった」というふうには、回想が噛み合わない場面もみられました(これは、古河講堂の東隣にあった獣医学部が、1964-66年に現在の北18条へ移転したためです)。

このように、北大の風景のイメージは、在学時期や過ごした学部によって、卒業生それぞれに違うものです。本誌の連載「北大風景グラフ」では、毎回構内の1ヶ所をとりあげ、その風景の変遷を写真で追っていきます。ぜひ、皆さまが過ごされた「北大」を探してみてください。

(廣瀬)



新入生向け冊子 「北大生の生活」

北大生の下宿・家計収支・1日のスケジュールなど、学生生活に関する情報の宝庫です

大学祭パンフレット

構内の絵地図には、大学発行のものとは違う味わいがあります



編集準備室日誌

- | | | | |
|--------------|--------------------------------|--------------|--|
| 2018. 4. 1. | 北海道大学150年史編集準備室を設置、廣瀬室員着任 | 2018. 5. 27. | 関西同窓会・関西エルム会主催の「北大会館祭(15周年)」(於：大阪駅前第2ビル5階第1研修室)にて講演(山本兼任室員)・資料展示を開催(廣瀬室員設営・解説) |
| 2018. 5. 1. | 佐々木室員着任 | 2018. 5. 28. | 京都大学大学文書館視察(廣瀬室員・佐々木室員・山本兼任室員) |
| 2018. 5. 15. | 編集準備室webページ公開
編集準備室リーフレット発行 | | |
| 2018. 5. 17. | 第1回150年史編集準備室会議開催 | | |

イベントのお知らせ

オープンキャンパス 2018

資料展示解説ツアー 8/5(日)・6(月)
北大の歴史を知る
①10:30～ ②13:30～ ③15:00～

ホームカミングデー2018

9/29(土)・30(日)

いずれも 9:30～16:30 展示公開中
当日限定の特別企画展示もあります

在学生や教職員の皆さまもぜひお越しください

特別企画展示 予告

札幌農学校の開校から42年——1918年。
この年は、北大にとって記念すべき年になりました。

4月、北海道帝国大学、設置。
大学昇格は、札幌農学校にとって悲願でした。
東北帝国大学農科大学と呼ばれた時期を経て、
ついに、単独の大学「北大」となりました。

9月、加藤セチ、入学。
女性の大学進学が想定されていなかった当時、
加藤セチは北大への入学を志願しました。
座り込みまでした結果、全科選科生としての入学を
認められ、女性初の“北大生”となりました。

“北大”と“女性の北大生”が誕生した 1918年。
今年、それからちょうど 100年目にあたります。

資料の収集・保存にご協力を

北海道大学の歴史を編んでいく上で、皆さまの記録や記憶は欠かせない重要な資料です。

ご自身やご家族の皆さまのお手元に、北海道大学に関わるものがあれば、ぜひ情報をお寄せください。

ご提供いただいた資料は、大学文書館の収蔵庫において大切に保管してまいります。

『ごえもん』以外にも、「鬼仏表」のような印刷物・日誌・回想文などがあれば、ぜひお知らせください！

探しています

雑誌『ごえもん』
各号



『ごえもん』第5号
(1993年3月)
渡辺一史氏編集の北大キャンパス雑誌。
「鬼仏表」と題して授業の紹介文が掲載されています。単位の難易度だけでなく、教員の研究内容についても鋭い評論が加えられます。
現在、大学文書館では第4・5号のみ所蔵しています。

北海道大学150年史編集ニュース 第1号

発行日 : 2018年7月20日

編集・発行: 北海道大学150年史編集準備室
〒060-0808

札幌市北区北8条西8丁目

北海道大学大学文書館内

開室日 : 平日(月～金) 9:30～16:30
(祝日、年末年始12/29～1/3を除く)

TEL/FAX : 011-706-2395

E-mail : hu150@archives.hokudai.ac.jp

URL : <https://www.hokudai.ac.jp/bunsho/hu150.html>

